

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：衛生費 項：環境管理費 目：公害対策費

事業名 環境測定・監視機器等整備費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部 環境管理課 水環境係 電話番号：058-272-1111 (内 2835)

E-mail： c11264@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 16,863 千円 (前年度予算額： 13,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	13,000	0	0	0	0	0	0	0	13,000
要求額	16,863	0	0	0	0	0	0	0	16,863
決定額	15,100	0	0	0	0	0	0	0	15,100

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

環境中のダイオキシン類、PM2.5 や水質汚濁の状況を把握するため、保健環境研究所及び各保健所に測定機器を整備しているが、現在使用している機器は、10年以上前に購入しており、修理用部品の供給が既に停止や直近にも停止する可能性がある等、修理困難な状況であることから、本体の更新が必要となっている。

年間計画による環境の常時監視測定に使用するほか、汚染発覚時などの緊急を要する事案への対応に使用するため、検査体制の整備が必要である。

(2) 事業内容

- ・大気用シーケンシャルサンプラー等の整備

大気用シーケンシャルサンプラーはPM2.5の測定で、その他は河川水又は地下水の水質測定で使用する機器であり、耐用年数を過ぎ劣化が著しいことなどから、今後の測定を支障なく行うため、更新等により整備する必要がある。

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・県 10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
備品購入費	16,863	環境測定・監視機器等の購入
合計	16,863	

決定額の考え方

所要額を精査し計上します。

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

環境分野では、検体の分析に迅速性、行政の信頼性を求められる事例が多く、そうした事例では県の試験機関での分析を優先的に行っていくことが必要であることから、保健環境研究所及び保健所で必要とする検査機器の整備を行っていく。

(参考) 令和5年度以降に要望する機器整備等

年度	要望額 (千円)	整備機器等
令和5年度	14,596	イオンクロマトグラフ、冷却遠心機等
令和6年度	11,711	恒温恒湿チャンバー、フィルタ測定用マイクロ天びん、試料保冷庫等
令和7年度	15,789	カーボンアナライザー、シアン蒸留装置、電気低温乾燥機等
令和8年度	7,965	マイクロ波試料前処置装置、ローター・ガス洗浄モジュール、インキュベーター等

※高分解能ガスクロ質量分析装置:

令和5年度から令和12年度まで(90か月間)リース予定。

事業評価調査（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 環境の常時監視測定のほか、汚染発覚時などの緊急を要する事案に速やかに対応できる検査体制を整備することを目標とする。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率

○指標を設定することができない場合の理由

各保健所等の検査体制の整備に必要な測定機器等の新規購入・更新を行う事業であり、指標値を設定することが困難なため。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	耐用年数が経過する等、機器の不具合や修理が困難な状況である測定機器等の購入を行った。（令和2年度購入台数 9台） 必要な機器の整備により、計画に基づく公共用水域常時監視における水質検査や、事業場から排出される排水等の水質調査に速やかに対応することができた。
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加 <hr style="border-top: 1px dotted black;"/> 指標① 目標：__ 実績：__ 達成率：__%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加 <hr style="border-top: 1px dotted black;"/> 指標① 目標：__ 実績：__ 達成率：__%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 2	年間計画による環境の常時監視測定に使用するほか、汚染発覚時などの緊急を要する事案への対応に使用しており、整備の必要性が高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	機器整備等によって、必要な検査を実施することが出来ている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 1	整備する機器によっては、導入により操作による試料汚染や試料ロスを十分低減でき、高い精度が求められる項目の分析の実施が可能になるとともに、分析時間の短縮につながっている。

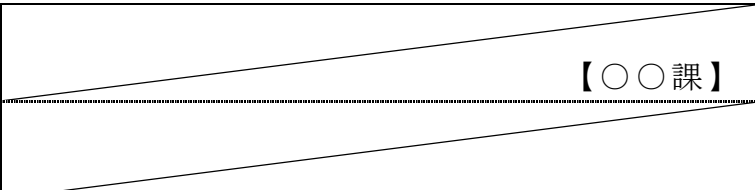
(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 環境基準項目の追加に対応するため、測定項目等の見直しが必要となる。 保健環境研究所及び保健所で使用する現有機器の老朽等がみられており、優先度が高い機器を順に整備していかなければならない。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 検査を担当する保健環境研究所及び保健所の要望を確認し、必要な機器の整備を進めていく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課 組み合わせる理由や期待する効果 など	
--	--

【〇〇課】